

# Yumeken

# 春

2015 Vol.668

◆特集○話題の焦点

どう伝えたい、建設業の魅力

「建設業の魅力発信に関する座談会」

◆夢インタビュー

自分たちらしい農業で地方暮らしの魅力を発信

◆行ってみよう

土木遺産 龍ヶ池揚水機場と砂山池揚水機場を訪ねて

◆おじゃまします

株式会社 澤村





# どう伝えたい、建設業の魅力 「建設業の魅力発信に関する座談会」

昨年、建設業に入職した若手従業員4名に集まっていただき、建設の仕事に対する思いや、後に続く若手就業者を増やすためにはどこを改善し、どんなPRを行ってほしいかといった内容で、意見を出し合っていました。今回は、テーマに対して自由にできるだけ多くの意見を出して、ディスカッションするブレインストーミングの手法を取り入れて進められました。

## 司会進行



(一社) 滋賀県建設業協会  
広報委員長  
鈴川 一行

## 出席者



大輪建設株式会社 住宅部  
蒲生 真子さん



株式会社フジサワ建設 住宅部  
石見 拓也さん



株式会社向茂組 工務部  
川添 満さん



株式会社桑原組 土木部  
久米 鴻佑さん

### 日時

平成27年  
3月11日(水)

### 場所

夢けんプラザ

**若者に届く効果的な  
広報活動を目指して**

**鈴川** 建設業界で現在、たいへん深刻な問題になっているのが技術者不足です。とりわけみなさんのような若い方が圧倒的に不足しています。今後、ベテランの技術者がどんどん退職していくことを考えると、どうやって入職者を増やすかが大きな課題であり、広報委員会の使命でもありと考えています。

そして、みなさんが入職前に抱いていた建設業に対するイメージと入職後の相違点こそ、就職活動をしている方に真に広報すべき内容だと考えています。今日の座談会で得たみなさんの意見や柔軟な発想を手がかりに、今後の人材確保にどんなメディアを活用して、どんな情報を発信すればいいかを考えていきたいと思います。

ではまず初めに、簡単な自己紹介からお願いいたします。

**蒲生** 大輪建設株式会社に住宅部の現場監督として働き始めて、来月で1年になります。建設業を選んだ理由は小学生の時から建築士になるのが夢で、夢を追いかけて大学でも建築関係の勉強をしました。就職先を選ぶ時、設計事務所に入って設計をするか、それとも現場に出るかというところで、考えた時期がありましたが、インターンシップで両方を体験して、現場の仕事を選びました。

やりがいはお客様に「いい家を造ってもらった」といっていただくこと。将来の夢は建築士になること、今は現場のことをしっかりと覚えて良い現場監督になりたいと思っています。

**石見** 株式会社フジサワ建設住宅部の監督として現場に出て、今は主に分譲地をやっています。現在、5カ所くらいの現場が動いています。そこをまわって大工さんに指示をしたり、事務や営業の仕事も少しやらせてもらっています。

中学生の時に作った東京タワーの構造がすごく気になって、いろいろ調べているうちに建設という職業に興味を持つようになりました。

今はより正確な指示が出せるよう勉強して、

## 湖国 街かど ウォッチング

新しく便利になった街や施設をレポートするコーナーです。

# 「長浜市役所新庁舎」(長浜市)



新庁舎 東正面

長浜市の新庁舎は、株式会社日本設計関西支社の設計、フジタ・材光特定建設工事共同企業体の施工で昨年12月28日に竣工しました。漆喰の白と瓦のいぶし銀(黒)という日本の伝統家屋をイメージした外観で、外装材にはテラコッタというタイルが用いられています。

大きな特徴の一つに、建て替え前に東別館として利用していた、旧長浜市民病院中央棟を全面的に改修して再生し、東側に新館を新設してつなぐことで、「コ

ト削減を図ったことがあげられます。フロア計画では、市民の利用が最も多い市民課や保険医療課、税務課などを1階フロアに集約することで利便性の向上を図りました。長浜の特産品「浜ちりめん」で使用される「山葵色」や「山吹茶」といった日本の伝統色が、各階ごとに異なるフロアカラーに採用されています。

市民に親しまれる施設となるよう、市民交流ロビーや市民ギャラリーのほか、各階に市民も利用できる展望ロビーが設けられ、外構には長浜の象徴的な情景をモチーフに、竹生島の景、盆梅の景」といった「新長浜八景」と称する風景が創出されています。

また、災害に強い庁舎となるよう、例えば72時間分の自家



「新・長浜八景」(左から) 竹生島の景・盆梅の景・奥山の景

発電装置や井戸水の利用、ガスの仮設供給用接続バルブ、各種無線や衛星通信を利用した情報収集・発信のための設備など、さまざまなインフラ設備のバックアップ機能が整備されています。防災棟は市民の安全のシンボルとなる常夜灯の役割を果たし、春はピンク、夏はグリーン、秋は紅葉、冬はブルー、緊急時には赤い光を放つようになっています。

そして、強い日差しを遮る深い庇や外壁の高断熱化、自然採光や通風を取り入れる工夫、屋上緑化など、CO<sub>2</sub>の排出を抑えるさまざまな技術や工夫も取り入れられています。



受付ロビー

長浜市八幡東町632  
http://www.city.nagahama.shiga.jp/

## CONTENTS

湖国街かどウォッチング	2
「長浜市役所新庁舎」	2
特集・話題の焦点	3
どう伝えたい、建設業の魅力	3
「建設業の魅力発信に関する座談会」	3
夢インタビュー	7
自分たちらしい農業で	7
地方暮らしの魅力発信	7
株式会社「ヨロ」佐々木由珠さん	7
三峰 敬代さん	7
行ってみたい	8
土木遺産 龍ヶ池揚水機場と	8
砂山池揚水機場を訪ねて	8
おしゃまします	10
株式会社澤村	10
絵画コンクール入賞作品	12
夢けんひろば	14
ここが知りたいものづくり	14
生「コンクリート」ができるまで	16
「仕事の達人・遊びの達人」	17
山本 大起	17
バスル	17
近江っまいもの紀行	18
読者の声	18
取材こぼれ話	19
編集後記	19
表紙写真	19
「街を造ろう」横山 終吾	19
「こんなきみがあつたらいいな」村木 夢羽	19
「たいたいまアパート建設中」追立 峻弥	19
「工事げん場」高橋 翔人	19
「ショベルカー」八木 さくら	19
「ASTACO」木村 晴	19
「新しい街を見に行こう!!」茂山 咲也香	19
「オールテレインクレーン」寺井 恒輝	19





大工さんたちに信頼される現場監督になりたいと思っています。夢は自分の家を自分が監督して建てること。早く夢を実現できるようにがんばりたいと思います。

**川添** 今は株式会社向茂組で現場監督の見習いをしています。基本は重機に乗ったり、（測量機器で工事の基準となる）ポイントを出したり、丁張（工事着手前に建物の正確な位置を出す作業）などを担当しています。

建設業を選んだ理由は小さい頃から重機が好きだったから。同じ仕事をしている両親も応援してくれています。将来は、重機オペレーターとして活躍したいと思っていますが、工務部に入ったのは重機を操るだけだと思ったからです。工務部で修業して現場監督もできるオペレーターになりたいと思っています。

**久米** 株式会社桑原組の久米です。現在の仕事は現場に出て写真を撮ったりタンクの集計などを担当しています。大学時代に土木の構造物を研究テーマにしていたので、そのまま建設業に就職しました。今は現場で日々新しいことの発見が多いので、その発見を糧に将来は自分の現場を持つようにしたいと思っています。

**若者が建設業に抱くイメージは？**

**鈴川** 「建設業に対するイメージ調査」によると、30～60代の親世代は、建設業に対するポジティブな意見も多い反面、給料が少ない、休日が少ない、危険な仕事、マナーがよくないといったイメージを持っている人が多いという結果です。

10～20代の子世代は、経済発展に貢献していない、安定していない、環境保全に貢献していないというイメージがあり、建設業で仕事をしてほしいという人は35%くらいしかいません。給与・休日が少ないという理由のほか、厳しい、怖い、荒っぽいというイメージも、就労したくない理由になっています。

ここでみなさんから聞かせてほしいのが、入職前に建設業にどんなイメージを持っていたか、それから仕事に期待していたこと、1年間仕事して

**大切なことは「この仕事が好き」かどうか**

**鈴川** しんどいことがあっても続けられる理由は何ですか？日々のモチベーションをどうキープしていますか？

**蒲生** もともと好きなことが仕事になっていたので、ストレスを感じることはほとんどありません。休日も割とちゃんと取っていて、建築を見に行ったり美術館めぐったり、同期が3人いるので休日と一緒に出かけたりしています。同期と会社のことや仕事のことをおしゃべりしているとお互いがんばらなくてはとモチベーションが上がります。

**川添** 仕事をしんどいと思うことはないですね、好きな仕事なので。

**久米** 書類とかで残業になるのはいやなんです。現場に出ている時は新しい発見があって新鮮だし、職人さんと話をするのも楽しみです。休みはどうしても連休を取りにくいので、日帰りでボードに行ったりしています。

**石見** 休日はロッククライミングを楽しんでいます。建築が趣味と言えば趣味なので、そんなにストレスとか感じていません。仕事が終わってからスカイプで友達と話したり、お酒飲んだりするのも楽しみです。時々上司から「土曜日、出てくれるか？」と言われることもありますが、日曜日に休めたらそれでリフレッシュできてますね。

**鈴川** 休みが少ないことは、みなさんにとってはそれほど問題ではない、共通しているのは、好きな仕事であるということですね。逆に条件が良くても好きじゃない仕事はやりたくないということだと思います。

そう考えると、根底に好きがないといけないし、あと、「根気がない」とできない仕事」と書いてくれています。反面、同じものを作るのが長くなりますよね。反面、同じものを作るのが長くないので、「新しい工法など毎回新鮮な気持ちで仕事ができる」という意見もあります。

小さい時から重機が好きだったという川添さん



ブレインストーミングで、「建設業に求めること」「後に続く人に伝えたいこと」について意見を出し合い、最後に4人の意見をまとめて発表しました。

みて期待と違ったこと、ここを改善してほしいと思うこと、そしてこれから就職活動する若者に伝えたいことなどです。

カードに思うことを自由に書いてもらって、それを集めてみんなで話し合うブレインストーミングを行いました。

は、ご両親の影響ですか。

**川添** 影響はあったと思います。子どもの頃から現場に連れて行ってもらうたりしてましたね。自分から連れて行って頼んでましたね。

**建設業でしか味わえない達成感が魅力**

**鈴川** ここからは、みなさんで意見を出して決めてほしいことが2つあります。1つは次に続く人にこれを伝えたいということ。もう1つは、若手就業者が建設業に求めること。この2つをみなさんで話し合っておきたいと思っています。

例えば建設業に入る前に不安だったことはありますか。これから入ろうとしている人に、大丈夫だよと、入ってみるとどうだと伝えたいことはありますか。

**久米** たいへん楽しくて楽しいということ。女性が少ない業界なので差別があるので、はと心配でしたが、あと、3Kと言われるのも不安でしたが、

**石見** 上司はみな気さくでもおもしろい人ばかりです、怒った時は多分怖いと思いますが、

**川添** 職人さんも話してみるとやさしいです、イメージは怖いかもしれないけど、強面の人が多いので（笑）

**石見** 怖いというイメージを払拭できたらしいのですが、

**久米** イメージが大事です。業界とか会社の。

**蒲生** 入ってくる時は上司や職人さんが怖いというイメージがあったのですが、入ってみて、みなさん気さくで優しい方が多かったということ



株式会社向茂組 工務部 川添 満さん  
現在、川添さんが現場監督見習いとして仕事をしている、電王町の町道岡屋仁殿線の工事現場。

を伝えたいです。

**鈴川** そのほかにも伝えたいことはありません。例えば建築、建設業の達成感とはどこにあるかということか、

**久米** スケールの大きさではないですか。

**川添** 何もないところに構造物ができるといのがいいと思います。

**石見** それが建設の仕事の楽しさだと。

**久米** 何もないところに、後世に残るような、大きいものを一から造っていくことに達成感を感じます。それがなにもにも代えがたい建設業の魅力です。

**鈴川** みなさんが後輩に伝えたいことは、怖いイメージがあるけど、実際は気さくでやさしい、だから安心して入ってきてほしいということ、何もないゼロから大きなスケールのもので建てるという達成感を感じたいというところですね。

**課題はコミュニケーションや事務処理の簡素化**

**鈴川** 建設業に求めることの中で、みなさんが困っていることという残業です。思った以上に書類が多いことです。例えば書類専門の人がいて、分業化できたら現場に集中できるし、書類仕事が簡素化できれば、残業を減らすことができるのではあります。

**久米** 残業が減って休みももっと取れるようになると思います。

**鈴川** その他にも石見さんから、「コミュニケーションがとりにくい」という意見が出てましたね。

**石見** そうですね、社員同士、ゆっくり話をする機会がありません。

**鈴川** 同期の話がすごく刺激や勉強になるという意見がありました。社内コミュニケーションを活発にすると、上司や先輩からもいろいろ学べるようになるわけです。さらに、社外の技術者や職人とコミュニケーションできれば、もっと広がりますよね。

**久米** 工事が終わるまで現場で孤立している状態

**仕事の楽しさはどこにあるか**

- 何もないところにもものを作る、成果が目に見える
- 造ったものがその場に残る

**入職してみると**

- 職人さんは意外に気さくでやさしい
- 体力がいると思ったが監督業はそうでもなかった

**建設業のイメージ(入職前)**

- 怖そうな人がたくさんいると思っていた
- 会社ごとの違いがわかりにくい

- 他にない達成感がある
- スケールの大きさ
- ものづくりに直接関わられる
- 工事の始まりと終わりの現場の風景が目に見えて違うのがいい
- 造ったものがその場に残る
- 新しい工法など毎回新鮮な気持ちで仕事ができる

- 夏や冬の外仕事がつらい
- 残業が多い
- 書類仕事が多い
- お客さんや近所への気配りが必要
- 現場がきれい
- 同期同士で話をするのが勉強になる
- 人の出入りが多くあまり社内には人がいない
- 根気がない方はあまり向かないかも…
- 根底に好きが必要

- どんな工事が得意かが分からない
- とてもたいへんな仕事
- 職人さんとおしゃべりが楽しい
- 汚れる、休みが少ない
- 体力が要る
- 女性が少ない
- 達成感のある仕事だと思った
- 忙しいけど楽しそう



で、異なる現場の社員とはコミュニケーションがとりにくいのですが、イベントとかがあれば話をする機会も増え、会社全体がまとまってくるのではないかと思います。

**鈴木** 建設会社は現場、現場が孤立していて、組織で動くということがあまりないですね。例えば教育にしても、現場に出まわるとやりにくいし、途中から現場に入ったりすると、そこだけになってしまいますね。

**石見** それを見越して、当社では初めに営業でも研修を受けるようにしている。お客様との打ち合わせまで入って、ちょうど施工にかかる時に監督として現場に配属されました。



株式会社フジサワ建設 住宅部 石見 拓也さん  
建築中の住宅の電気配線を確認。点検業務は長く安全快適に暮らせる家づくりには欠かせない大切な仕事の一つです。

**鈴木** 例えば、なぜこの工事をこの工期であげないといけないかというのは積算から持ってくるものなので、積算の経験がないと理解しにくい。教えるというところになってしまいます。

事務処理の簡素化というのはまさに協会の仕事で、分業化を進めてほしいと行政に訴えかけたりするのが協会の役割です。そして、この建設会社も進めたいと思っていることが、コミュニケーションの活性化です。技術の共有を図るために必要になります。

### 求人・求職のミスマッチをどう解消するか

**鈴木** あまたある会社の中で、なぜ今の会社を選んだか、どうして出会ったかなどについて教えて

もらえますか。

**久米** 学校は大阪ですが、滋賀県で就職したいと思ってました。学校に求人が来ていた建設会社の中から、何社かまわって現場にも行かせてもらいました。その中で桑原組では、トネルの工事現場を見学させてもらったことがここに決めました。



株式会社桑原組 土木部 久米 鴻佑さん  
国道161号湖西道路の現場で測量する久米さん。現場では毎日のように新しい発見があるという。

**川添** 学校に求人者が来ていて、たまたま父の知り合いがいましたので、そこに行けということになりました。知ってる人がいるというのはやはり安心ですね。

**石見** 私も学校にフジサワ建設の求人者が来ていて、訪問した時に現場に連れて行ってもらいました。分譲地ですでに何十棟も建っていて、中も見せてもらって、ここに決めました。

**蒲生** 私は自分で探しました。就職サイトで探したんですが、なかなか建設会社は少なくて…今の大学生はけっこう就職サイトを利用していると思います。そう思うと建設会社さんはあまり就職サイトを活用されていないのではと思います。

**鈴木** 建設業界はハローワークに求人を出すことが多いのですが、ここでもミスマッチが生じているんですね。あと、就職合同説明会にブースを出しても、他の業種はたくさん並んでいるのに、誰も建設会社のブースには来ないというのが現状です。それで、就職サイトに出してもだれも見えてくれないのではないかと感じてしまっています。だから出さないのかもしれない。

ずっと即戦力が欲しくて中途採用に偏ってきた弊害が、今明らかになっています。あと5年から10

年したら定年退職などで全員いなくなるという、深刻な状況になっています。

そして、これから女性にもっと建設の仕事に入ってきてもらいたい。



大輪建設株式会社 住宅部 蒲生 真子さん  
住宅着工前の測量作業では、これから始まる家づくりに向けて期待と緊張感が高まる。

すればいいか、何かありませんか。  
**蒲生** 入職前、すごく不安だったのは、ずっと続けていけるかどうかということでした。結婚や出産で自分の働き方がどう変わるのか、会社がそれに対応してくれるのかわからないまま入社しました。なるようになるだろうという感じで…

**鈴木** 残業せずに帰れるのが、子育てと両立できるの不安ですね。制度はあるけど実績がないのは、これまで産休があっても使う必要が生じる人が少なかったからですね。

怖いイメージとか3Kイメージは女性が増えたら間違いなく改善します。職場環境もよくなると思います。待遇も含めて、女性が入りやすい職場にすることが必要ですね。

**求職者が知りたい情報を効果的に発信するために**  
**鈴木** 就職活動をしている人たちに、効果的に私たちの情報を届けるために、たとえば「建設業界に入って実際にどんな仕事をするんだろう」とネット検索したら、建設業協会のホームページにつながり、仕事の流れや実際がわかるようにしておくと、建設業の魅力を伝えることができるかもしれないですね。

就職活動中、企業のサイトを見て、もっとこんな情報があればいいのと思ったことはなかった

## 自分たちらしい農業で地方暮らしの魅力を発信



脱OJで就農後は、湖南市の伝統野菜弥平とうがらしの栽培を手がけるようになり、製品加工やパッケージングには弥平とうがらしをテーマにしたイベントまで企画するようになった佐々木さんと三峰さん。

社名は「農業Stamam fm craic」。英語で楽しむという意味のcraic(クラック)を合わせて、楽しく自分たちらしい農業をしたい、楽しいことを発信したいという思いを込められています。



●OJを辞めて農業を始めようと思われたその理由が…

ともに滋賀県出身で、大阪と東京でOJをしていましたが、滋賀に戻って何かしたいと思い、職業訓練コースのアグリファーム科を受講。その訓練校で出会い、いよいよ農業をやってみようということになったんです。2人とも農業の体験はなくて、漠然と「地に足を着けた仕事＝農業」というイメージを抱いていました。

●弥平とうがらしを栽培するようになった経緯は？  
「コースが終了するとすぐに土地を借りて、まずこのあたりの伝統野菜「下田ナス」の栽培を始めました。ビジネスとしてやるなら何か付加価値のつけられるものでないと勝負できないと思ったからです。

その下田ナスの苗を分けていただいた農家から「弥平とうがらし」の苗もいっしょに分けていただき、収穫してみるとすごく特徴があることがわかりました。まず、辛さが鷹の爪の2倍の10万ス「マイル(辛さを量る単位)」で日本の在来種のトウガらしの中では最高レベルの辛さを持ちながら、糖度がフルツトマトより高い11.5度もあって、独特の旨味があるんです。

湖南市には特産品と呼べるものが少なく、下田ナスは栽培している農家も多かったのですが、何かほかに取り組める作物はないかと思っていました。保存できるし、加工しているような商品を開発できるという魅力でした。

●レックレックや加工も二人でされているその理由が…

今は20アールの畑の約8割ほどで弥平とうがらしを栽培しています。収穫は8月から10月の末くらいまで。収穫後は乾燥や加工という作業を行っています。乾燥とうがらしのほか、スパイスやチリソース、とうがらし入りスウィーツなども手がけています。

●特に苦労されたことはありますか。

化学肥料や農薬を使用していないので、天候や害虫など自然の影響を受けやすく、収穫量もまだ安定していません。自家消費用に作られています。本格的に栽培している人がいないため、最初は試行錯誤しました。

●農業を始めようと思ったきっかけは？

何と言っても収穫の喜びですね。会社勤めでは味わうことのできない感動を味わえる。一年中農作業をするのではなく、春から秋まではしっかりと働いて、冬の間は少しゆとりして、商品開発などに取り組むといったメリハリのある働き方ができるのも魅力です。

●認知度を高めるための取り組みなどはありますか。

昨年10月に「東海道石部宿まつり」に併せて、「弥平激辛サミット」を開催しました。市内外の飲食店から弥平とうがらしを使ったメニューを応募していただき、地域に定着する新名物開発を目指しました。

●今後のビジョンについて聞かせていただけますか。  
今後は飲食店などと連携しながら、新メ

ですか。

**石見** 何が得意なのかをもっとはっきり書いておいてほしかったですね。あれもこれもじゃなくて、会社の強みを伝えるのは難しいと思いますが、そういうところを伝えるのがポイントになるかなと思います。

今日は長時間になりましたが、いろいろな意見や思いを聞かせていただきありがとうございます。今後の広報委員会の活動や協会全体の活動に活かしていきたいと思っています。最後に一言ずつお願いします。

**鈴木** 協会から、各会員企業さんに就職活動に有効なサイトになるよう、アドバイスしていきたいと思っています。

**蒲生** 自分の考えていたことが、みなさんが考えておられることと同じだったり、同じ悩みを持っていることがわかって少し安心しました。後輩たちが入ってくる中でイメージアップだとか、女性でも入りやすく続けられる業種になってほしいと思います。そのことを今日お伝えできてよかったと思います。ありがとうございます。

**石見** 今、同期がいらないし、先輩は上司というほうがいい方ばかりなので、意見などを自由に言い合う場所はありません。だからこの場で意見や考えを話すことができてよかったと思います。同じ悩みを持っている方もいますので、こういう場がまたあれば参加して、後輩にも伝えていきたいと思っています。ありがとうございます。

**川添** 1歳下の後輩が入ってきましたので、もっとうまくやってその後輩の手下になるよう頑張っていきたいと思っています。

**久米** 会社の上司は30代前後。現場現場で分かれてしまっているのが、コミュニケーションの機会が少ないのですが、もっとコミュニケーションできるような環境を、若手社員も安心して仕事ができるようになると思います。また今日は、いろいろな意見や考えを知ることができてよかったと思います。



株式会社 fm craic

(左) 佐々木 由珠さん

○ささき ゆず  
仏教大学で仏教を専攻、卒業後、中国・天津へ留学、日本茶道と中国語を学ぶ。大阪のインド専門・旅行会社に就職。サラリーマン生活を経て、食や農業に関連する仕事に就きたいと退職、「アグリファーム」を受講。思いを共通する三峰さんと出会い、農業をビジネスとして捉え共同事業をスタート。

(右) 三峰 教代さん

○みたか ゆきよ  
イギリス・ニューカッスル大学大学院で通訳を学ぶ。ヨーロッパのマルシェを巡り美味しいものを食べ歩き、シベリア鉄道を使いモンゴル経由で帰国。東京の外資系金融ソフトウェア会社就職、シニアコンサルタントとして働く。一からのモノづくりにあこがれ、農業を学ぶため滋賀に帰郷、「アグリファーム」を受講。

ニュー、新レシピの開発、レトルト食品などの新商品づくりに取り組んだり、経験を生かして土地の特産品を生かした商品開発やにぎわいの創出をプロデュースできたらいいと思っています。

拡大拡大でビジネスをどんどん大きくしていくのではなく、地方の資源やネットワークを生かしながら仕事ができ、自分たちだけでなくまわりにもいる人たちもちょっと幸せにするビジネスや、働く時はしっかり働いて自分の時間も大切にすること、地方での暮らし方の一つのモデルとして発信できればいいと考えています。



豊郷町

たつがいけ

土木遺産 龍ヶ池揚水機場と砂山池揚水機場を訪ねて



「砂山池揚水機場」  
揚水池の大きさは長さ約40m、幅約14.5mと細長い。  
※取材に訪れた時、ちょうど揚水池の改修のための測量が行われていました。作業をされていた方によると「石積みが緩んでいるところがあるので、揚水池に立ち入るのは危険」とのことでした。



揚水ポンプ

豊郷町にはほかに、約1,500年前の日本最古の名園が残る阿目岐神社や、伊藤忠兵衛記念館などたくさんあるスポットがありますが、今回は岡村本家と豊郷小学校旧校舎群に立ち寄りしました。

岡村本家



株式会社岡村本家  
〒529-1165 滋賀県犬上郡豊郷町吉田100番地  
TEL 0749-35-2538 / FAX 0749-35-3500  
http://www.kin-kame.co.jp/

中山道の高宮宿と愛知宿の中間に位置する豊郷町。伊藤忠・丸紅の創始者として有名な伊藤忠兵衛をはじめ、数多くの優れた近江商人を輩出したほか、江州首領発祥の地としても知られています。  
今回は、日本で初めての動力（蒸気動力ポンプ）による地下水利用施設で、土木学会推奨土木遺産に選定されている「龍ヶ池揚水機場」と「砂山池揚水機場」を訪ねて、町内をウォーキングしました。



今も現役、日本初の蒸気動力ポンプによる灌漑揚水場

「ガチャコン電車」と親しまれる近江鉄道に揺られて豊郷駅へ。駅からのどかな田園地帯をしばらく歩くと、雨井神社の小さな鳥居が見えてきます。「龍ヶ池揚水機場」と「砂山池揚水機場」は、明治43年に建設された蒸気動力ポンプによって灌漑用の地下水を汲み上げる日本最初の施設です。  
この豊郷の地は肥沃な土地に恵まれ稲作が行われてきましたが、遠く離れた犬上川からの取水に頼っていたため、度々干ばつに見舞われ、しばしば水争いが起こりました。  
長い日照りが続いた明治42年、石畑と四十九院の地主有志が協議して2つの池を掘り、蒸気動力ポンプで地下水を汲み上げる計画を立てて、豊郷村耕地整理組合が設立されました。電燈のない時代に、夜間はかり火をたいて、述べ1万人を動員して2つの池の掘削工事が行われ、翌明治43年6月に石畑（龍ヶ池）と四十九院（砂山池）が相次いで完成しました。イギリスのアレン社から購入した「コンケロール式遠心型ポンプ」が汲み上げた地下水が、勢いよく吐水管から流れ出ると、村人たちが歓喜の声をあげたと伝えられています。  
この揚水事業の成功が伝えられると、各地から視察に訪れる人が相次ぎ、豊郷村内でも次々と揚水池が掘削されたほか、各地に揚水事業が普及しました。  
大正12年に動力が電力に変わりましたが、現在もまだ池は現役で、周辺農地に水を送り続けています。

「龍ヶ池揚水機場」  
石護岸の揚水池は長さ約16.4m、幅約16.4m（地平面）。  
ポイラー用の煉瓦積み煙突には「タツガイ」の文字が見える。



安政元年（1854年）彦根藩主井伊大老から酒造りを命じられて創業、彦根城の別名「金亀城」に由来する「金亀」と「大星」の銘柄で酒造りを行ってきました。  
滋賀産の米を使って、蒸しは醗、麹は箱麹、仕込みは1,200kg前後の小仕込み、搾りは木樽袋搾りという昔ながらの醸造方法で、40%から100%までの精米歩合別に、火入れ酒、生酒、熟成酒、古酒を醸造しています。  
酒蔵見学（20名以上は要予約）もできるほか、酒造りに使われていた昭和初期の建物をライブなどが行えるホールとして開放しています。

昨年、築90年の精米倉を改装してオープンした酒蔵カフェ「豊郷発酵倉」では、地元産の食材を使って、酒蔵らしく粕漬けや塩麹、味噌などで味付けした料理やスイーツのほか、金亀の利き酒も楽しむことができます。（営業時間は午前11時～午後3時）  
また、古民家を利用した直営店「遊亀亭」では、近江の郷土料理と酒蔵料理を提供しています。（予約制）

酒蔵の中を案内する6代目当主の岡村博之社長。



酒蔵らしい味付けのランチが人気の酒蔵カフェ「豊郷発酵倉」。



ランチ

豊郷小学校旧校舎群



昭和12年、豊郷町出身で丸紅の専務であった古川鉄治郎によって寄贈された小学校。ウィリアム・メレル・ヴォーリズの設計で、プールや図書館を備えた鉄筋コンクリート造の校舎は、「東洋一の小学校」「白亜の教育殿堂」として、長く町民に愛されてきました。  
2009年に耐震工事等大規模改修を終えてからは、観光案内所や町立図書館など町の活動拠点として活用されています。また、アニメの聖地として大勢のファンが訪れる人気スポットになりました。  
校舎の1階、南昇降口には、龍ヶ池揚水機場で使われていた「コンケロール式遠心型ポンプ」と関連資料が展示されています。

「東洋一の小学校」と讃えられた豊郷小学校旧校舎群。階段手摺にはイソップの寓話からとったウサギとカメのブロンズ像が設置されている。



アニメの部室が再現されている。



旧校舎群内に展示されたポンプ

〈問い合わせ〉  
豊郷町観光協会（豊郷小学校旧校舎群 酬徳記念館内）  
〒529-1169 滋賀県犬上郡豊郷町石畑518番地  
TEL&FAX 0749-35-3737  
http://toyosato-kanko.jp/



# 高島の活性化に取り組み、 ともに歩む建設業を目指して

株式会社 澤村

高島市勝野1-108-3

代表取締役 澤村幸一郎



社屋



若手社員を積極的に採用しているため、社内には活気に満ちている。

## 10年後を見据えた 人材育成に取り組む

昭和25年創業の株式会社澤村。25歳で社業を引き継いだ澤村幸一郎社長は、「地域で信頼される建設会社としての地歩を固めた父の思いを大切に、新たなフィールドにもチャレンジしたい」と、公共工事を含む一般建築や土木、住宅やマンションの設計・施工、リフォームなどで培った技術力を強みに、事業を展開しています。

伝統的な木造在来工法やモダンな洋風住宅、自然素材にこだわった「無添加住宅」など、多様なニーズに応える質の高い住宅の設計施工をモットーにしています。また、デザインと「コストのバランスが取れたマンション企画技術を生かして、土地活用のための経営サポートを行うなど、他社にはない商品やサービスづくりに取り組むほか、工場や倉庫、店舗の分野では大スパン無柱空間を得意とするシステム建築\*でも実績を積んでいます。

「父の代からのベテラン社員のサポートと、

## 高島への移住促進を目指す イベントなどを通して地域の 魅力を発信

高島市の人口は現在約5万1,500人。高齢化が進み人口減少が続く現状について澤村社長は、「これからも地元での事業を展開していくためには、地域の活性化をどう進めていくかが課題になる。具体的には高島に移り住む人を増やすため、行政や地域住民と連携して、高島の魅力発信や地域資源の発掘・活用などに取り組むことが大切になる」と指摘します。

5年前には湖西地域で活動する工務店や建設会社とともに、移住希望者との交流、移住促進、地域活性化を事業対象とする「特定非営利活動法人 結びめ」を立ち上げ、代表に就任しました。

結びめでは、豊かな自然に恵まれた田舎で暮らしたいと望む人たちに、情報を発信したり、地域住民と移住希望者の交流会や空き家の見学会を行うほか、高島を創作の場として移住してきた陶芸家などの「風の人」と、高島で育まれ地域に根ざす「土の人」の暮らしと作品に触れるイベント「風と土の交響」を開催してきました。

実際に山里の暮らしを体験することで、都会の利便性を欠いた暮らしができるか、地域住民とどう付き合おうかといった不安を解消してもらおうと、安曇川町中野に築150年の古民家を移築・改修した、山里暮らし工房「風結い(かざゆい)」を開設しました。さまざまなイベントの会場として活用するほか、



山里暮らしが体験ができる「風結い」。目の前にある田んぼでは、田植え、稲刈りなども体験できる。



若手社員のパワーとやる気を活かして、活気のある会社になりたい」と言う澤村社長。「10年スパンで将来を展望して、どこにどれくらいの人材を配置するかを考えて人を育てていくようにしています。若手社員がしっかりと活躍しているところをアピールすれば、就職活動をしている人たちがここで働きたいと思ってくれるはず」と、積極的に採用を行っています。

そして、大きな方針やビジョンを示して、その中でどのように仕事を進めていくかは各自の自主性を大切にするようにして、若手社員が活躍できる環境整備に取り組んでいます。

「自身の年齢が、これから育っていく社員とあまり離れていないということも強みになると思う」と言う澤村社長。社員が手づくりしたリクルーティング用のパンフレットやお客様向けの広報誌からも、自主性を重んじる活気ある社風が伝わってくるようです。

ここを拠点に農業や食、工芸をテーマに学ぶ講座「山里交響学舎」を開講しています。

また、市内にある空き家の発掘、紹介などを行うほか、家造りの基本を学ぶセルフビルド塾を開講するなど、移住にかかる費用を抑えてハードルを低くすることで、移住促進を図るという狙いもあります。

ほかにも、滋賀移住ライフスタイル情報発信事業の一環として「高島ライフスタイル読本」を企画作成したり、集落の住民自らが企画して魅力を発信するイベントにも協力しています。「自信を持って『ここはこんなにいいところですよ』と語ってもらいたい」と語る澤村社長。

京都や大阪にも近く、ほどほどに便利で住み良い田舎という点で、高島はとても魅力のあるエリアです。「まずは、多くの人々をここを訪れてもらえるようにして、その中からほんとうに高島を好きになって、ここで暮らしたいという人が一人でも多くなるよう、活動を続けていきたい」といふことばで、インタビューを締めくくりました。



風と土の交響in琵琶湖高島から。ギャラリーとして開放されたガラス作家の自宅。



澤村幸一郎社長



株式会社澤村がプロデュースして誕生した分譲地「環の街」のオープニングイベント。



施工例/「環の街」のモデルハウス



集合住宅の施工例

大スパン無柱空間を得意とするシステム建築



高島に移住した建築士が講師を務めるセルフビルド塾。



風と土の交響in琵琶湖高島から。麻や帆布を使った袋物とかばんを製作する「工房 細井袋物」。

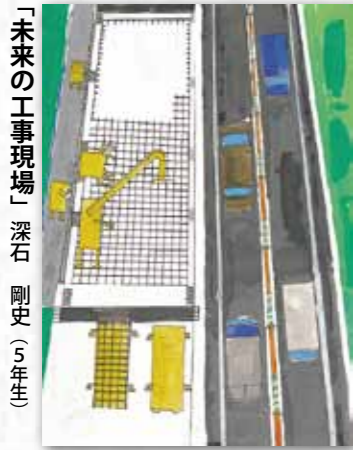


風と土の交響in琵琶湖高島から。陶芸家の前川俊一さんの自宅アトリエ。



第2部  
小学校高学年の児童

評 上空からの視点で斬新な作品です。高速道路の建設現場で、ロボットのような重機がワイヤーメッシュにコンクリートを流し込んでいる様子が伝わってきます。



「未来の工事現場」 深石 剛史(5年生)



「未来の工事現場」 小西 慧斗(4年生)

評 クレーンやショベルなど、いろいろなアームがついた人形ロボットの建設機械がカッコいいですね。近未来を案じさせる作品です。

評 「ASTACO」木村 晴(5年生) 双腕作業機の特徴が緻密に描かれています。魅力的なモチーフとの出会いとその感動が伝わってきます。



優秀賞

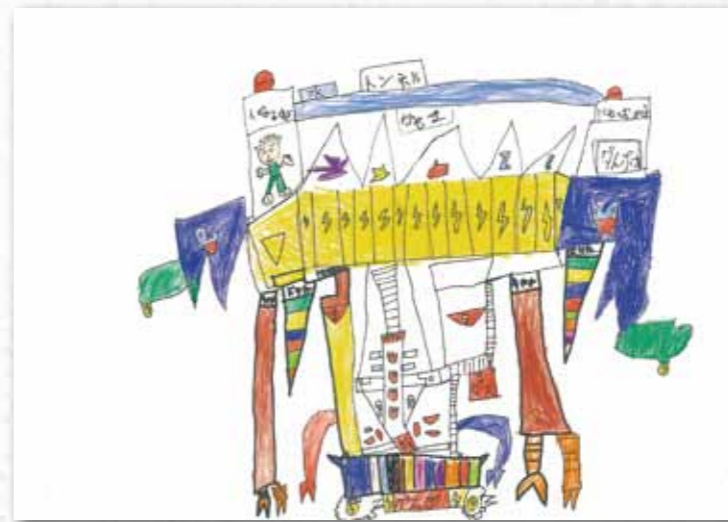
第2回

『夢けんプラザ絵画コンクール』



テーマ

「工事ではたらく機械」 日常にある建設機械やあったらいいと思う機械  
「道路やビルなどの工事のようす」 住んでいるまちの道路、橋、ダムやビルなどの工事の様子あるいは未来の工事現場



最優秀賞

「こんなきかいがあったらいいな」 村木 夢羽(2年生)

第1部  
小学校低学年の児童

優秀賞

評

化石を発掘する機械でしょうか？繊細なアームやカラフルなドリル、動力はメタンガスかな？見る者の想像を刺激するユニークな作品です。



優秀賞

「ショベルカー」 八木 さくら(2年生)

評 パワーショベルがダイナミックに働く様子が見事に描かれています。



「自然とともに」 高田 珠有(3年生)

評 花や虹の効果で明るい印象ですね。今度は、人や動物たちも描いてみてはどうでしょう。



「工事中のひと休み」 居原田 あゆ(2年生)

「新しい街を見に行こう!!!」 茂山 咲也香(3年生)



「未来の工事現場」 川村 一真(1年生)



入選

評

地下から上空まで、さまざまな働く車が丁寧に描かれていて、工事現場のにぎわいが聞こえてきます。どんな街ができるのか、想像がかき立てられるステキな作品です。

最優秀賞

「街を造ろう!!!」 横山 悠吾(1年生)



「オーレルレンクレーン」 寺井 恒輝(4年生)



「がんばれショベルカー」 吉村 実桜(5年生)



入選



「シャベルカー」 玉谷優樹(6年生)



「ウンボを乗せたトラック」 片岡 龍生(5年生)



「大かつやくアスタコNEO」 橋 天(4年生)



「はたらく自動車」 野川 透矢(2年生)

評 働く機械の色使いが綺麗です。また働く人がたくさん描かれていてとっても楽しい作品です。



「ただいまデパート建設中」 追立 峻弥(1年生)

評 空を飛ぶ飛行機がクジラや魚のようで、未来のデパートを想像させます。また足場で囲われた、中がどうなっているのかワクワクしますね。



「工事げん場」 高橋 翔人(3年生)

評 クレーンで鉄骨を釣り上げる様子がよく描かれています。何が出来るのかワクワクしてくる作品です。

入選



「ウインつきブルドーザー」 木下 翔太(2年生)



「はたらく車」 田村 優奈(2年生)



「地底トンネル」 藤井 楓(1年生)



「プールをつくるショベルカー」 元村 莉子(2年生)



「がんばれ ロードローラー」 長屋 美優(2年生)



「がんばれ！ハイパーオーレルレンクレーン」 田村 通基(2年生)

成安造形大学 准教授  
宇野 君平

第2回「夢けんプラザ絵画コンクール」の審査も、昨年以上に素晴らしい作品に出会うことができました。今回は「工事ではたらく機械」「道路やビルなどの工事のようす」がテーマでしたが、創造性に富んだユニークな機械や、大型の重機を精密に描写したもの、大勢のロボットや人が働く様子など、子どもたちの夢の建設現場が表現されていました。建設現場には、ダイナミックな空間や動く機械など、子どもたちの好奇心をかき立てる魅力的な要素が沢山あります。

好奇心はあらゆる学問の原点ですから、子どもたちに感動を与える「見せる現場」に進化することで、この活動が更に発展することを期待します。





広報誌取材

滋賀県建設業協会や滋賀県建設青年会議などの動きについてご紹介するコーナーです。

# 夢けんひろば

★誌面でご紹介する2014年10月から2015年3月までの主な動きのほか、滋賀県建設業協会の動きは協会広報委員会のフェイスブックで発信しています。

2015

2014

10月7日(火)

**近畿地方整備局と意見交換会を開催**  
大津プリンスホテルにおいて、近畿地方整備局とさまざまな議題について意見交換会を開催しました。

10月8日(水)

**長浜支部による琵琶湖一斉清掃**  
秋晴れの下、協会長浜支部が長浜ドーム前を中心に琵琶湖一斉清掃を行いました。約1時間の作業でたくさんのごみが集まりました。

10月11日(土)

**笠縫東小学校のかまどベンチ設置**  
滋賀県建設業団体連合会が、草津市の笠縫東小学校の生徒の皆さんと一緒に、災害時には炊き出しに使えるかまどベンチづくりに取り組まれました。同連合会では平成23年度から社会貢献活動の一環として、防災かまどベンチ設置事業に取り組んでいます。

10月16日(木)

**近畿ブロック会議**  
近畿ブロックにおける喫緊の課題や国土交通省の政策等について、国土交通省・全国建設業協会・近畿各府県協会等の関係団体で意見交換が行われました。

10月25日(土)

**フォトコンテスト入賞作品を展示**  
滋賀職業能力開発短期大学校で開催された「ポリテックビジョン滋賀」で、フォトコンテスト入賞作品を展示しました。また今回、会場ではお客様に建設業界に対する意識調査を実施しました。

11月6日(木)

**建設業協会理事会で各委員会が実績を報告**  
滋賀県建設業協会の理事会が開催され、広報委員会をはじめ各委員会が事業の実績や進捗状況について報告しました。

11月6日(木)

**滋賀県土木交通部との意見交換会**  
滋賀県庁で滋賀県土木交通部と建設業協会の意見交換会が開催され、さまざまな議題について意見交換が行われました。

11月9日(土)

**建設青年会議が婚活パーティーを開催**  
滋賀県建設青年会議は、出会いのきっかけを提供することを目的に、フェリエ南草津にて婚活パーティーを開催しました。男性18名、女性19名が参加し、プロフィールカードを見ながら、仕事の話や趣味、休日の過ごし方などでトークタイムを楽しみ、最後にマッチングを行って10組のカップルが誕生しました。

11月13日(木)

**絵画コンクール審査会**  
広報委員、成安造形大学准教授の宇野君平氏が出席して、「夢けんプラザ絵画コンクール」の審査会を行いました。応募点数は昨年より少し減りましたが、参加学校数が増加して、よい形で定着し始めました。

11月15日(土)・16日(日)

**おうみしごと体験フェスタ出展**  
滋賀県立文化産業交流会館(米原市)で開催された「おうみしごと体験フェスタ」に、建設青年会議が出展しました。「子供たちに建設業を身近に感じてもらう」というテーマのもと、「工事現場体験教室」を開校、生コンを使った手のひらサイズのテトラポッドの製作や、高所作業車やショベルカーの乗車体験を行いました。

11月17日(月)

**雇用改善推進大会を開催**  
夢けんプラザにて滋賀県建設雇用改善推進大会を開催、「三陸鉄道 震災・復興の取組」と題して、三陸鉄道株式会社代表取締役社長の望月正彦様よりご講演をいただきました。会場ではフォトコンテストの入賞作品と子供絵画コンクールの入賞作品の展示も行われました。

12月8日(月)

**暴力追放大会を開催**  
滋賀県警察本部刑事部組織犯罪対策課 福永課長らを来賓に招いて、夢けんプラザで滋賀県建設業暴力追放大会が開催されました。

1月8日(木)・14日(水)

**絵画コンクール表彰式**  
8日、本庄協会長が、第2回夢けんプラザ絵画コンクールの最優秀賞受賞者の横山君を、守山北中学校に訪ねて、賞状と記念品を授与しました。また、14日には小学生の部の最優秀賞受賞者の村木君と入選者の木下君、田村君、長屋さんを本庄協会長が長浜市の永原小学校に訪ねて、表彰式を執り行いました。

2月4日(水)

**フォトコンテスト実行委員会開催**  
夢けんプラザにおいて「フォトコンテスト実行委員会」を開催、第20回の事業報告と次回のコンテストの内容について意見が交わされました。

2月3日(火)

**滋賀銀行各店で絵画コンクール入賞作品を展示**  
第2回「夢けんプラザ絵画コンクール」の入賞作品を、滋賀銀行南笠支店と下笠支店で展示させていただきました。

2月後半(土)

**夢けんせつ春号の取材をスタート**  
広報誌「夢けんせつ春号」の取材で、広報委員が長浜市役所や長浜生コン工場、豊郷町にある土木遺産などを訪ねました。

3月11日(水)

**広報委員長による若手就業者座談会を開催**  
夢けんせつ春号の特集企画のため、建設業入職1年目の若手就業者による座談会を開催しました。これからの建設業に望むことや、入職者増加のための意見・提案などについてうかがいました。

婚活パーティーで誕生したカップルがめでたくゴールインします！  
幸せいっぱいのお二人にうかがいました。

婚活パーティー報告  
私たち結婚します！



パーティーに参加したきっかけは？  
建設男子●社長に勧められて。最初はあまり乗り気ではありませんでした。  
フィアンセ●ラジオでパーティーのことを知って。良い方との出会いがあればと思い参加しました。  
第一印象は？  
建設男子●きれいな人だなーと思いました。  
フィアンセ●汗をカキカキしながらも、話し方は穏やかで優しい方だなーと思いました。  
どんなところにひかれましたか？  
建設男子●よく気が利いて明るいところ。一緒にいて楽しいです。  
フィアンセ●しっかりと話を聞いて、受け止めてくれるところ。とても安心できます。  
建設業に対するイメージは？  
フィアンセ●どの職業も、その方々がいて世間は成り立っていると思います。建設業はそれぞれに専門の方が多いので、物を作っていく素敵な職業だと思います。  
これからどんな家庭を築いていきたいですか？  
建設男子●お互い手を取り合って暖かい家庭を築いていきたいです。  
フィアンセ●言葉にすることも大切ですが、思い合える関係を続けていきたいです。



雇用改善大会



おうみしごと体験フェスタ



土木交通部との意見交換会



長浜支部によるびわ湖一斉清掃



絵画コンクール表彰



絵画コンクール審査会



笠縫東小学校でのかまどベンチ設置





# 生コンクリートが できるまで



建設工事に欠かせないコンクリート。生コンクリートを運搬するミキサー車を目にするのも少なくありませんが、どのように作られているかはあまり知られていないかもしれません。今回は長浜市にある「長浜生コン有限責任事業組合 びわ工場」を訪ねて、製造工程を見学させていただきました。

## シンプルだけど奥深い生コンの造り方

生コンクリートとは、正式にはレディーミクスドコンクリートと呼ばれ、工事現場まで配送されて荷下ろしするまでの状態で、まだ固まっていないコンクリートのことをさします。材料のセメント、骨材（砂や砂利）、水、混和剤を計量して、ミキサーに入れて練り混ぜ、できあがった生コンをミキサー車（アシネーター車）に積み込むまでの工程を担うのが生コン工場です。

「なんだそれだけのことが」と思ってしまうかもしれませんが、「普通」コンクリート（一般構造用コンクリート）「軽量」コンクリート「高強度」コンクリートなど、コンクリートにもさまざまな種類があり、用途によって材料の配合を細かく変えて製造しています。言い換えればこのシンプルな材料をどう配合するかによって、できあがるコンクリートの性質が大きく変わるといえます。

コンクリートの強度は水とセメントの割合で決まります。水が少ないほうが強度が増すのですが、少な過ぎると流動性が悪くなって現場で扱いにくく、隅々までコンクリートが行き渡らないと、返って強度を損ねることになります。

さらに、厳密には材料の砂が含む水分量や気温などもできあがりに影響を与えるため、同じ生コンを作る場合も気候条件などによって成分量の調整が必要になります。生コン工場では注文を受けるため試練りを行います。「微調整を繰り返しながら最適な配合



◀計量装置(上)と二軸強制練りミキサー(下) プラントの上部にある計量装置で計量された材料が、下のミキサーに投入され練り混ぜられて生コンができあがる。できあがった生コンはホッパーという装置の下に待ち受けているミキサー車に積み込まれる。

率を決めるのですが、そこには長年の経験や勘がものを言います」と工場長の中川真司さん。びわ工場では、最新のシャフトのない二軸強制練りミキサーが導入されています。より均一に練り混ぜることができるうえ、従来のミキサーでは通常40秒くらいかかる練り時間を25秒くらいにスピードアップしました。それにしても練り時間が短いには驚かされますね。

## 鮮度が命?生コンはまさになまもの

日本で生コンの販売が始まったのは昭和24年から。昭和28年にはJIS（日本工業規格）規格が制定され、製品の標準化が図られました。その後、技術の進歩や環境への配慮に基づき、何度も規格の改訂が行われています。

JISでは、生コン工場から工事現場までミキサー車で90分以内に到着して、10分以内に打設（施工）できることが条件になっています。生コンの消費期限は10分、時間が経つと品質が落ちるデリケートな製品です。

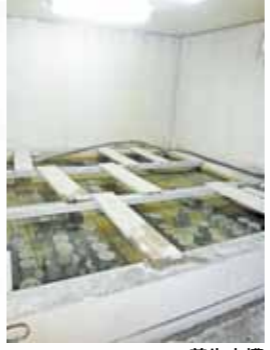
昔は工事現場でその都度、天候や気温を考慮した配合で材料を練ってコンクリートを作っていました。品質にはばらつきがあるうえ、作業に手間がかかりました。生コンの登場で、一定の品質が保てるようになり、現場の負担を軽減し、作業の効率化につながりました。

びわ工場の製造工程はすべてコンピュータ制御されています。制御室からは、遠隔監視カメラを通して、ミキサー車一台分の材料が投入され、ミキサーで練り合わされて、アッと言う間にホッパーと工



すべての工程は制御室からの遠隔操作で行われている。

試験室では圧縮強度試験やスランプ（やわらかさ）、空気量測定などさまざまな試験を行って、品質をチェックしています。



養生水槽



テストピース



圧縮試験機

装置からミキサー車に積み込まれるようすを見ることができました。生コンに加える水は地下水のほか、ミキサーやミキサー車を洗った際に出る洗い排水を回収して、上澄み水を再利用しています。また、工場内には品質管理を行うための試験室が設けられています。ここでは、現場から持ち帰ってきたテストピースを使った強度試験などで製品の品質チェックを行うほか、材料の砂の水分量や粒の大きさも毎日チェックしています。

長浜生コン有限責任事業組合 びわ工場  
長浜市曾根町1200-1 ☎0749-72-3233

## 仕事の達人、遊びの達人 私のオフタイム

# 不動の心で弓を射る、 弓道の魅力

株式会社奥田工務店 山本 大起



弓道を始めしたのは高校時代の部活動から。中学の時は陸上をやっていたんですが、ちょっと人と違っていて、変わったことをやってみて、と思ったからです。自分に合わせていたのか、大学でもクラブに入り、卒業後も地元近江弓道協会に所属して練習を続けています。弓道のおもしろさは、例えば野球ならうまくい人はいつプレーしても上手ですが、弓道の場合はどんなにうまくい人も、精神的に不安定な状態で弓を射ることに集中できないというところがあります。もちろん、正しく弓を射る形を身に付けることも大切ですが、形ができても同じように弓を射ても、少しでも心が乱れると同じように飛びません。弓道が精神鍛錬のスポーツと言われる所以です。



長年弓道が続けてきたお陰か、仕事が忙しい時やトラブルに直面した時もパニックになることが少なく、いつも飄々としていると言われるようになったから、続けてこられた



のかもしれない。野球やサッカーのようにポピュラーでないため、練習できる場所が少ないこと、住んでいるところから遠いことがもつぱらの悩みです。自宅やスポーツクラブで普通の筋力トレーニングを射ることがなによりの練習です。そのため近江市の布引運動公園弓道場のほか、ちよつと遠い弓道場まで足をのぼすこともあります。一昨年の第68回国民体育大会に滋賀代表チームの一人として出場しました。3月からは国体の出場選手を決める選考会が行われます。入社して5年経ち、大きな現場を任せられるようになったことで、練習時間が思うようにとれません。また、国体の舞台で活躍できるようチャレンジし続けたいと思っています。



（ ）内の数字をすべて足すといくつになりますか?  
ヒント/本誌の記事を参考にしてください。

豊郷町にある「龍ヶ池揚水機場」と「砂山池揚水機場」は、明治（ ）年に完成しました。湖国の伝統野菜「弥平とうがらし」の辛さは（ ）万スコヴィルで、タカノツメの（ ）倍。生コンクリートはできあがってから（ ）分以内に打設することが、JIS企画で定められています。

今回の特集では、建設業で働く（ ）名の若手就業者に、建設業の魅力発信をテーマに語り合っていました。

高島市の人口は現在約（ ）万1,500人です。



今号には、第（ ）回「夢けんブラザ絵画コンクール」の入賞作品が掲載されています。長浜市役所新庁舎には、長浜の象徴的な情景をモチーフにした「新長浜」（ ）景が創出されています。



前号の答え  
「広報委員会」

パズル&クイズ当選者

- 清水正博さん
- 西川清子さん
- 藤澤勲さん
- 那須文英さん
- 野瀬浩一さん
- 山根信二さん
- 浅井洋子さん
- 木原雄三さん
- 北川恒雄さん
- 梅下真奈美さん

### 応募方法

- P&Q及びアンケート(返信用添付ハガキ)の両方にお答えいただいた方の中から抽選により粗品を贈呈します。ふるって応募ください。
- 別のハガキにて応募の方も住所、勤務先(学校名)、氏名及びP&Qの答え、アンケート、メッセージ等を書いて送付してください。
- 締め切り  
平成27年6月20日必着
- あて先  
〒520-0801  
大津市におの浜一丁目1-18  
(一社)滋賀県建設業協会 広報委員会

### 季刊夢けんせつ春号

2015年(平成27年)4月10日

通巻第668号

発行 (一社)滋賀県建設業協会

〒520-0801 大津市におの浜一丁目1-18

TEL.077-522-3232(代)

FAX.077-522-7743

http://www.yumeken.or.jp

企画編集 広報委員会

協力・印刷 宮川印刷株式会社



東別館として使われていた旧長浜市民病院の建物が、新市庁舎の西館として再生されています。

## 取材こぼれ話

庁舎にはめずらしい黒い外壁が印象的な長浜市役所新庁舎。当日、案内してくれた総務部庁舎整備室の溝川潔理事の説明の中で、広報委員のみなさんが最も関心を寄せたのは、旧長浜市民病院の古い建物を全面改修して再利用することで、建設コストを大きく抑えられたということでした。

基礎と鉄骨だけを残してすべて取り除き、耐震強度を上げるために鉄骨梁端部をコンクリートで巻いて、鉄骨を補強してSRC造に。さらに、最上階の7階部分を取りはらって、3カ所の吹き抜けを設けることで、大幅に減築(床面積を減らすこと)して、建物全体の重量が軽減されています。フロアの高さを揃えるため、新設された東館は天井高を高くすることができなかったのですが、仕切りのないオープンフロア方式を採用して窓を広く取ったことで、内部は圧迫感のない明るく開放的な空間になっています。



「新・長浜八景」湖畔



「新・長浜八景」水路



オープンフロア方式で明るく開放的な執務スペース。

色をフロアカラーにしたり、「新・長浜八景」という来庁者へのおもてなしの風景を設けたり、長浜名物の梅とひよわたんのモチーフを取り入れるなど、長浜らしさがさまざまに表現されていることにも興味を引かれました。

## 湖国の伝統野菜「弥平とうがらし」(湖南省)



株式会社fm craic  
http://www.fmcraic.com/  
☎0748-75-8810

こなんマルシェ  
http://www.burari-konan.jp/marche/  
☎0748-72-5275



スイートチリソース ホットチリソース

湖南省下田の弥平さんがどこから持ち帰り、100年以上この地で栽培されてきたと伝えられる「弥平とうがらし」。自家製の漬け物用に細々と栽培されてきた弥平とうがらしを、種から栽培して販売するビジネスを手がけているのが、脱サラリーマンした女性2人が運営する株式会社fm craicです。



弥平とうがらしの一味「びりり」

ただ辛いだけでなく独特の旨味があるのが特徴です。fm craicでは生や乾燥品のほか、さまざまな製品の開発や加工、ネット販売も行っています。一味のほか、柚子風味の「柚子びりり」、イタリアンスパイシー、ドイツアンスパイシー」といった粉末状のスパイス、ホットチリソースやスイートチリソースがラインナップ。



ホワイトブラウニー

※スコヴィルは辛み成分「カプサイシン」の量の割合を示す単位。世界的に有名な激辛トウガラシ「ハバネロ」は30万スコヴィル、日本の代表的なトウガラシ「タカノツメ」は4~5万スコヴィルです。

## After Word

この春号が出る頃には桜の時季も終わりのよい季節は春本番! 建設業界も忙しい年度末を終えほっと一息ということどころです。今回砂山池・龍ヶ池揚水機場・岡村本家・旧豊郷小学校取材のため豊郷町を訪れましたが、個人的に一番楽しみにしていたのは、なんといっても銘酒・金亀でお馴染みの岡村本家。江戸時代より150余年続く酒蔵を見学した後は、試飲ができるということで、大の日本酒好きの私には堪らない取材企画でした。

仕事なのに酒を飲むというとても幸せな取材でしたが、当然車の運転はできないため、実に高校以来35年ぶりに、通称「ガチャコン電車」と呼ばれる近江鉄道(近江八幡~豊郷)に乗りました。駅の様子はまるで昔のままのようで、改札前で今どきICカードが使えないことに驚き、久しぶりに硬い紙の切符を購入し、改札で駅員さんにパチンと鉄を入れてもらうとすごく懐かしい気分になりました。

不思議な気分のままガチャコンに揺られて豊郷駅に着き、そして揚水機場や旧豊郷小学校といった明治時代の素晴らしい建築物を巡り、まさにレトロな旅を満喫した1日でした。

もちろん金亀もサイコーでした。(金亀100を是非!)  
…そういえば近江鉄道も明治時代の開業でしたな…



- 近くで行われている道路改修工事が完成しそうです。形になる仕事がうらやましいです。(丹治 徳彦さん)
- 現在使用中のノートを見るとなんと「Re EDEN-Note」でした。そして、ヨシの活用は水の浄化、水鳥・魚などの環境、生息地保護につながりますと書いてありました。(木原 雄三さん)
- ココヨ工業滋賀の工場見学にぜひ行ってみたいですね。(鍋島 道雄さん)
- 写真を見るのが大好きです。表紙の2作品はとても素晴らしいです。機会があれば応募したいと思っています。(西村 道子さん)
- 歴史のある「鎧塚」に懐かしさを感じ、また「石山紫の道」の完成を待ち遠しく感じました。話題の焦点が業界の真の姿を伝える有意義な企画だと思います。(早川 博明さん)
- フォトコンテスト作品には楽しい写真が多くとても良かったです。(東 経彦さん)

## VOICE 読者の声

いつも植樹帯をきれいにしてくださり、美知メセナに参加されている会社に敬意を表します。ただ、設置された看板が時に景観を損ねていることもあり、設置方法についても工夫されると、メセナの本来の主旨により近づくと思います。(西村 忠員さん)





一般社団法人 滋賀県建設業協会  
[www.yumeken.or.jp](http://www.yumeken.or.jp)